

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak 2007 TM Kodak

門牌  
第 文號

集有得坊  
臨檢濟證  
會計課

觀覽第(六)號  
日期  
品目  
備付  
收學課

第壹七門 藝華講  
第 貳  
生書  
命佳石貴

尾張名所圖會

附錄

四

小治田之真清水卷之四



目錄

郡智多

阿野冠者

普門寺

永井氏舊居

長坂氏宅趾

神明社

智多酒船積圖

磯部山親王御

鯨魚同社

鏡敷石

松壽寺

岩宮八幡社

八幡社

藤井神社

高木喜次郎

龜崎神明祭圖

岩鍋城跡

心月齋

蜂城

志津幾軒

船魂神社

西方寺

大光院

堺川純橋同中

本多右馬允

天王社

常照菴樹園

成岩城墟

法華寺

一色修理大夫

石や此怪

匡徳院

青前魚釣

吞海院

智多の浦

野坂朝鮮人

小川氏舊居

帝皇塚

棕原氏宅趾

蟹代舊郷

海簾腸同製

師奇仇討

篠島同真

正法寺

日間賀島同真

惠比須松

小佐古墳

須佐入江

石蟹岡

新艘の事同

内海邊惣圖

白拍子池

諸見化成蟹

村君

一色村

野間庄

織田信孝吳威

柿並池血涌事

長田四郎太郎

高讃寺境内圖

粟油

熊野寄

八兵衛躰同

鷹の井

土田庄

琉球人漂流同

僧泰峯燒身事

大野太郎

大野渡

龍燈松

大草城跡

白比丘尼大桶

瑞光寺

佐布里常廻

寺本庄

花井城迹

智多萬歲話

蕨村華比呂 敷智國

衣乃浦の古歌

櫻大夫

大里橋同古

大真寺

正盛院

浄土寺

著賀御

忠女夏事同傳

荒尾古城

姫島村同野馬 中古國

毛登目島

寶珠寺

荒尾洞

子安明神社

秀次公事同判

火上神木奇事

智多郡

智多の浦

往昔ハ智多トシ地名ナリ只此所ナリ廣ク愛智一縣の

ちぢりといひの頃より有りて二縣にちぢりて南の方と智多郡

中名此分られより海濱地とられたの浦とらびそりぢり下

其證ハ日本武尊此御歌にのりし縣ひくみ姉子とみ流ひ万葉集夫

木抄等と必所ちらうとられたの浦とらび一首れらにもみ合せ

て且日本後紀より以前此國史古記録等に智多乃地名見えたり

考者一々一 万代和歌集及び歌枕名寄に

のちちの風音はちりか及れ浦の湖けの暮にちちの

と所傳歌ハ夫木抄にも入りしれと其句詞甚たりして所ちちの

のちちの風音と梳音と知多の浦と知多の江と誤りちち

の江と所傳のちちの夫木抄板行本の誤字ちちと名所圖會



阿野坂

狩鳥の宗湯列  
入道兩宮より  
送るは  
無物  
天のトカひさ  
まごふたかり君  
そよふしんご  
そよむき麻人  
近一 玄音法印  
君の代  
こほりつこし  
なごてれい  
そよふしんご  
つとまひしむ



り是又りつゝと云々せ給かく世にゆつゝに絶橋なり。近  
年此御修造より其姿替りて東西一様の土橋に成りて古歌に  
カシはいろやりにつきたつて今かかりゆく又橋南端に東正記に懸か  
の福井の町なるつくも橋半分の石橋半分の板橋中程にて絶つる大水  
二百五十年前より絶橋なり。今ハ普通の地橋に成りて猶名所  
團會と合せらる。

逢坂紀行 今岡村

山背國前

今岡村畔分奈尾兩國相脩一小橋橋下着来接土木好為笑具尉無聊

尾はとこの境川に流る橋のたのまの茶はては  
逢坂紀行 尾張のくはねてはなまらけに流るるまて

比國のどころにの境川志とてたつめてい橋の上 鉄橋是元

海雲山普門寺

横根村にあり大脳村曹源寺の末寺にて曹洞宗なり

境内觀音堂乃本尊ハ天武天皇乃白鳳元年二月十一日觀音の像白雲  
にのり南海より來現し沙彌村民むして堂をつくらせて安置す故

に海雲山と名つけ

藤井神社

同村にあり大府北尾大股落合進分横根以上六ヶ村の生

土神土神寸天照大神素盞鳴尊と合せ祭より創建乃年月定らばらず  
明應二癸巳年富田左京亮家次修造加山境内に藤井といふ名泉有  
り故社号となりしを其井合合廢したり末社熱田七社其外數祠  
有りしをれと衰廢せり

本多右馬允助定

同村乃人也尾陽雜記に本多右馬允助定乃父助秀豊

後國本多に任りて本多の称号と寸助定足利將軍尊氏公に仕りて

軍功あり當國粟飯原郷乃志村某と討取る其賞により尾州横根郷と

賜ひ御教書と下さるる也。乾齋知次編にのりする本多畧譜

にハ太政大臣兼家康子因幡守兼光ハ七代右馬允助俊ハ子右馬允助

政隨足利將軍尊氏討志村氏有功賜尾州横根郷粟飯原村と云えて

其音少たつり粟飯原ハ愛智郡二属一今ハ相原村と云り名所方角抄

小川氏首居

緒川村にあり今ハ水野氏古城の趾と呼べり水野家乃

先祖にて高名乃人數代此地に居住あり也まづ

香



堺川の絶橋  
中古此雅観



四ノ五

小川三郎重房ハ分脈系譜に尾張源氏浦野兵庫允重遠ノ子息に山田先生重直小川三郎重房ト云々ナリ兄弟ニモ河邊村ニ住コトナリ故河邊ニモ稱号トシ源平盛衰記及び平家物語の治承四年卯月九日源三位賴政卿ハ高倉宮にまゐりて言上ナリ諸國の源氏揃ヘ乃ウチに美濃尾張ノ河邊太即重直同三郎重房云云ト云ハテウ又白石先生の著書の水野勝成ノ傳のウチに浦野四郎の子重房小川の三郎ト名のモ其後亂小川下野守雅經ノ時に至テ尾張ノ智多郡英比郷小河村ノ地頭職ニ任セタリ云々ト云ハテ是ナリ雅經ハ文永元年甲子八月廿五日卒法名雅實ト号シ雅實の子下野次即雅經家督地頭職ト継ガリ其證文當所乾坤院にありテ左の如ク

將軍家政所下

尾張國英比郷内小河村一色

住人可令早源雅經法師法名覺妙為地頭職事

右任親父前下野守雅經法師法名智實去年八月十五日

讓狀為彼職守先例可致沙汰之狀仰仰如件

文永二年十二月七日 案主菅野 知家事

令 左衛門少尉 藤原

別當左京權大夫 平朝臣

相摸守 平朝臣

小川太即經村ハ下野守雅經ノ父ナリ兼久記の宇治河合戦の條に相摸國の住人三浦駿河次即恭村の乳母子の小川太即ハ恭村ノ手に屬シテ宇治橋遠ク押寄せタレテ京方ノ上筋火威の鎧ト着テ白月毛の馬にのりカサガサにつけたハ敵ト戦ヒタリ扱組トナリ兩馬ノ間に落タレテ小川ハ甲の真中ニ手痛ク打ノレテ目昏ミタリテ猶豫シ心ト静メ眼ト開キそれ我組トハ敵ノ首ヲ小川大音にていッ斃シハ人の組ヲ敵ノ首ヲ取り行くモノノ一リタレハ首持トモ者ナリウチ我ハ伊豆國ノ住人平馬太即也殿ハたと問小駿河次

即殿乃手の者小川太郎経村と答へたればさうして首を返さんと  
以小川是と請ふよりたりのち軍功評議の時其由申されば餘人  
組も居りて敵の首をとりたる平馬太郎ハ僻事也組留たる小川ハ高  
名也と褒譽ありてさうして居り

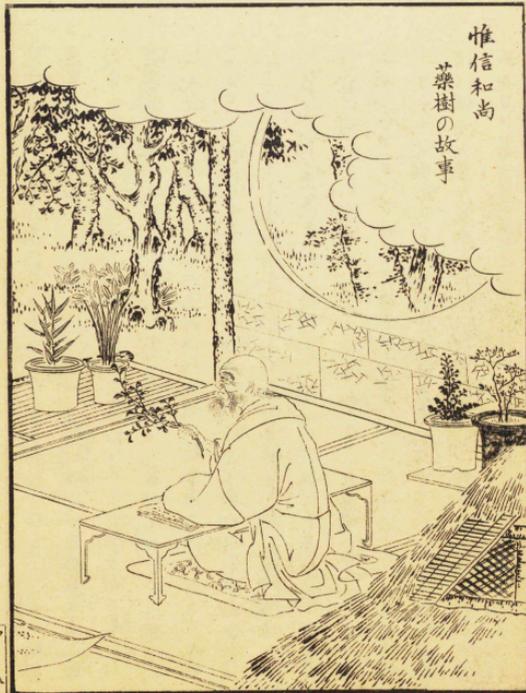
小川中務丞ハ 太平記の延文五年仁木右京大夫義長没落して京  
と出て伊勢國へ落々俗条に小川中務仁木に同心して尾張の國にて  
旗を揚尚云云去程に小川中務丞と土岐東池田と引合せて仁木に同  
心して尾張の小河庄に城を構へて桶篋りたりけ俗と土岐宮内少輔三  
千余騎を押し寄せ城を七重八重に取巻て二十日ばかり責めつゝ  
俄に持たぬ城をば兵報急にけきて小川も東池田も共に降人に  
出たり俗云云と志傳せり

永井直勝乃舊居 同村にあり右近大夫大江直勝乃祖父長田喜八郎  
廣正 道幹公に仕へ奉りて三河國大濱村よりちを領す其子平右衛

門直吉ハ則直勝乃養父なり中世この智多郡にも移りて一族繁  
榮せり 織田信輝御從士分限に長田孫を馬千五百貫智多郡  
ありおつ川ありさきと所も同苗の一種なり教村を領せり 直勝若年傳八郎  
と申し時より岡等の御城に奉仕し忠勤を尽せり板長田ハ養父の  
苗字且又逆臣乃同号をば改苗せしもの 君命を奉りて永井ハ改  
む天正十二年四月十九日長湫乃御合戦に敵方乃大将と討とう此類  
なき高名と頭ハせり彼大将乃令子ハ 御當家御一統の後御智に備  
つゝせられ備前侯に封せられし 或時直勝に逢ひて知行何程ぞと  
問われけしハ直勝千石と拜領すと答ふ其時彼侯歎息して嗚呼我父  
乃首のつてひの賤き事とてしめて知まりと大音に申され俗ハ  
上聞に達して多く乃御加秩を傳八郎にたゆりしとて文祿四年  
三月廿日從五位下に叙せられ其のち領知志づく加へられ下野國古  
河城池主とあり寛永二年十二月廿九日六十三歳にて卒去のしり白  
石先生乃著書及び冢田席の昇平日新録等に記さる



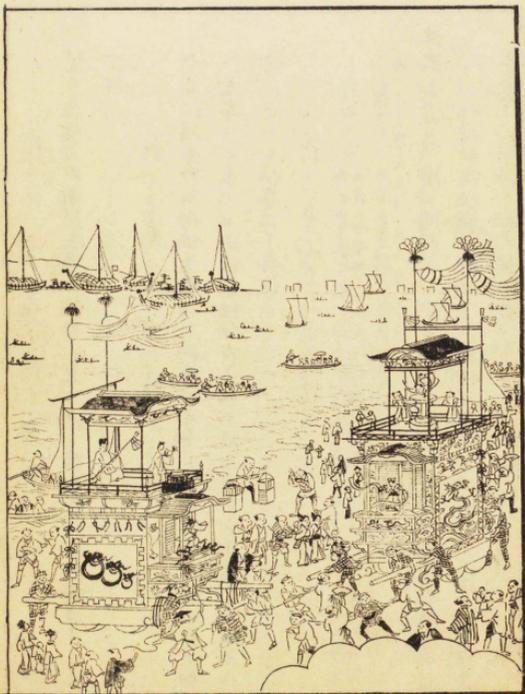
惟信和尚  
薬樹の故事





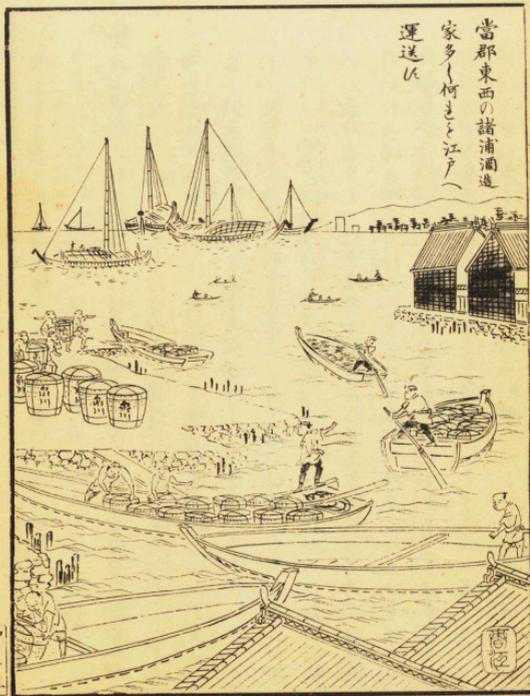
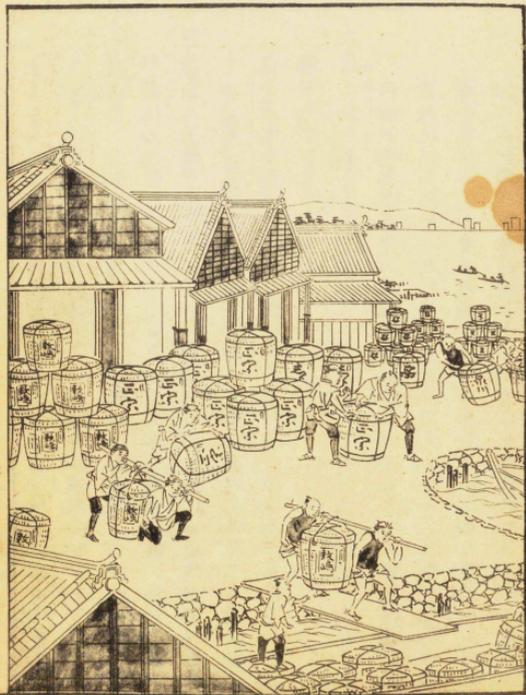
亀寄神明の祭礼

祭車五輛は、いゝつて  
 多く名馬に、近江の長濱祭に  
 髣髴し、西浦の内海祭、  
 又車数多く賑し、と神事多









きてなハ一ろともふめふ如くされハ費田ハ神宮に奉内御幣田を  
り吾妻鏡に幕下御外甥僧任憲相傳斐田社領内御幣田之處云云と  
又元備と文和三年四月廿三日ハ熱田御神領目錄に智多郡御幣田郷  
田畠伍拾三町九段貳十步云云と云うせば同御幣の地ナラハ  
梨溪山心月齋 布土村に在り曹洞宗にて常滑村天沢院の末刹なり  
たつめ養月齋といひハ漆桶子万里名づく所なるその銘の  
序文より心に心月孤園と云ふにありて今の号にうつり稱しめり  
極

養月齋銘 并序

極華嚴の蔵  
心之異字是謂三星純月宮群陸之本源泉水之主張也在天則為  
月在地則為水無二無別故云心月孤園光念万象也恭惟阿母氏之國  
有小蓬萊小蓬萊有小河城小河城之主盟号水野藏人為妙威名耀耀  
振華夷之間列國之諸侯僉爭修盟通好山之巽然者水之澗然者豈非

着色之活丹青乎哉漆桶子有一顧之素使介者需齋之名謹擇養月二  
字命焉且副以一十有六言之銘祝延千千万万子孫之遠大

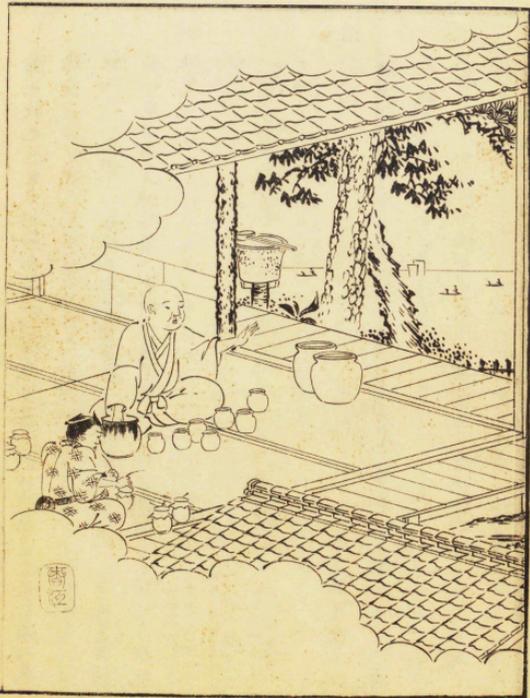
銘曰

一輪既滿 万象含秋 誰知潭底 不離屋頭 漆桶萬里

大東山法花寺

往古ハいづれに伽藍にて僧坊と多うりて中むうハ兵乱に類  
齋寺ハ文祿三甲午年貞崇法師中興せり當村田圃の字に金剛  
寺遍照寺なりと喩ふ地りや支院乃敷跡也といハリ又里老乃説  
當寺乃金剛力士の像ハむハ盗賊の千ふ去り今ハ伊勢の國ハ  
朝熊山に寺置のよハいひけりたりされハ其実否ハまうり  
海嶺腸 大井村の名産すて小名所國會にのせ置たれと其音少ハた  
うハ依て再ハ出す野必大の奉朝食鑑に海嶺腸訓主乃以尾州參州

為上武之本木次之諸國采海嶺處多而貢腸醬者少矣是好黃腸者金



持戒乃僧  
海嵐騰に  
白鹽と  
かどひ

希之故也。近世參州柵島有異僧守戒甚嚴而調和於腸。昔者叢蛇浦人取腸洗淨入盤僧窺之察腸之多少。探白塩投腸中。浦人用木篋攪勻收之。經二三日而嘗之其味不可言。今貢獻。者是也。故以參州之產為上品。後移于尾州而復調腸醬。以尾州之產為第一。世皆稱奇矣。と云る。せり佳境遊覽に志る。せ俗も又是に同一らに。この多く。福金堂繪所なり。と云。空可殿日記に。或時秀吉公御吐の人。と云。ゆゑに難談し。ゆりけり。或大名ゆゑに。蛸作（土貝海流腸の三種進上申）これたれ。大岡御覽ありてい。に。此商先に。つけ。二。つ。ら。ふ。と。仰。られ。け。り。と。畏。り。ゆ。ゆ。と。か。き。く。と。申。され。た。れ。秀吉公。言。の。ゆ。ゆ。と。この。ま。と。て。ゆ。ゆ。と。申。され。た。れ。と。申。され。た。れ。秀吉公。た。は。ま。に。共。一。つ。ひ。た。俗。と。志。せ。り。其。項。この。ま。と。に。賞。美。せ。り。事。と。お。し。る。

磯部山

師寄村の西の方に行り高やぐぬ小山なり彼宗良親王乃此地に到り浴び一時山路よりいそへの里にぐんかまてと云す。俗にひ数日休らりせりゆゑ名つけ成へ。凡名哥により山乃名となり。例なく。ぬ。す。富士八帝の御哥によりて不死の山と云ひぬ。ゆゑ竹取物語に又を嫉捨も甥も哥によりて捨

山と名つけ。大和物語に志俗。其外中。いと云俗。例

いと多。此師哥と磯部。も。ゆ。づ。事。八人見。磯部先生乃安永四年十月乃師哥日記に後中書王信濃より出立。て犬山に入り。よ。に。次りて北勢に移り。存。磯邊の里と詠。む。ゆ。り。今。其。名。は。残。り。な。り。感。慨。甚。壯。な。り。旧。と。懐。て。詩。と。賦。ひ。四。首。あり。畧。して。云。人見泰

磯里海風裏 空唱信王詞 不着新葉色 唯着故葉飛

と云え。ゆ。り。此詩意味深。信王詞。は。宗良親王と信濃宮と稱。故。なり。新葉色。は。磯部の里乃新葉集に入。ま。俗。とい。つ。り。

蜂

なり新葉色。は。磯部の里乃新葉集に入。ま。俗。とい。つ。り。

蜂の城 同所にありて荒神山と云へり。九村うち。に。城。跡。三。と。所。あり。よ。と。日。和。山。の。二。の。段。と。羽。豆。寄。の。う。ち。も。也。よ。ハ。文。明。八。年。大。野。城。主。佐。治。左。衛。門。尉。實。為。守。り。と。里。人。い。ひ。傳。へ。り。さ。れ。し。も。其。説。古。書。に。足。え。ず。恐。ら。く。ハ。蜂。屋。の。城。乃。訛。謬。か。ら。し。一。蜂。屋。氏。ハ。美。濃。源。氏。山。縣。二。郎。頼。清。乃。三。男。山。縣。三。郎。頼。經。の。子。蜂。屋。冠。者。頼。俊。より。殺。伐。加。茂。

郡蜂屋村に住す美濃守護土岐の連枝一族也家人の如く軍  
 事に従へり園太曆の文和二年四月十日の記に土岐家人原蜂屋等  
 とありハ蜂屋近江守貞経乃事ナリ原氏蜂屋ハ貞経乃事ナリ三代居住ハ美濃名細  
 理大夫光経當師等の城よりつりより二三代居住ハ美濃名細  
 記にのせし土岐氏系圖に蜂屋近江守貞経の三男修理大夫光経尾  
 張幡頭城主と云ふ一當村幡頭神社再建の棟札に康應元己巳年二  
 月六日幡頭城主蜂屋修理亮光経入道善武一足えたり其のち蜂屋家  
 退轉乃年月ハ定らざる佐治實乃子孫八即次郎為安等乃居住  
 せハ天文年中の事ナリ

一色修理大夫満乾ちのり 師等村乃傳説に明徳二年未年一色源四郎満  
 乾幡頭等の城と責り取て居住せしつり源四郎のち從五位  
 下に叙し修理大夫と稱す室町將軍の一族にて一卷の源平系圖寛  
 永の板刻に足利左馬頭義氏の孫一色宮内卿公深の曾孫左京大夫詮

乾乃長男満乾修理大夫  
 亮光寺と又之明徳記に一色満乾子の父詮乾と共に  
 明徳二年京都の合戦に山名陸奥守氏清と討取り武功比類ナリ  
 室町殿より厚く恩賞ありしと云ふ應仁別記に一色の被  
 官石川佐波守入道通  
 時ニ彼ハ先年伊勢守の國人より左京兆を背きし時彼入道女と云  
 たり尾張國波津ノ等と云ふ事起りたりと云ふ光也云々  
 ち乃石川入道も此一色家のものなり其後満乾剃髪して道乾と稱  
 左京兆とありハ京大夫乾乾の事ナリ

す幡頭明神の神宝のうち古写の法華経心經阿弥陀經合て九卷に  
 了く其奥書に

奉施入尾張國幡頭大明神御寶前

紺紙金泥妙法蓮華經壹部八卷并心經阿弥陀經各壹卷

右意趣者奉為天長地久國土豐饒殊武運長久子孫繁榮息

安穩壽命長遠隨順 上意飽足林録心中所願二世悉皆一々

圓滿所奉施入如件

應永十五年戊子卯月廿五日

一色従五位上修理大夫源朝臣 沙弥道範

と兄をり満範乃子息持範義範等ハ隣村内海庄マうつりて住居ありハナハナノ叔ハナハナノ塵ちん録りく朝日集あさひしづみニ永享の記録と引ひて永享十二年五月十五日大和の軍に一色親子三人自殺同廿一日千川殿幡頭等はたもとら打屯うちとん云云いんげん其千川殿ちせんハ今の千賀氏ノ祖也ちか終はつハハナハナ此一色親子三人ハ亦またも満範乃子孫みちのり或ハ一族の人いナハナハナ

師寄乃仇討

冢田先生の昇平日新録に参州吉田城主牧野左衛門

佐成時すけとき子田藏成たざうなり三昔年さんせきねん為善徳公ぜんとくこう評清へいせい戰死せんじ其子成綱なりつな為石川筑後所殺ころ其子成里なり猶幼なほわか至年十六乃欲報父之讐ちがひ而筑後既老なほ羞はづか不な忍討之しの筑後子隼人はやと剛氣強力ごうききやうりき従家臣数十而放奮はなはた於城下尾州師寄成里なり伏ひ従士し於叢中むら已ま單身而走ひとりで立擊殺たてうち之所伏之士乃起擁護ようご之相引而逃ひ云云いんげん此時滝川一益伊勢の長島より兵二百人遣り成里に与力あり

イハナハナちハナハナりハナハナせりハナハナ是天正年中てんてい中ちゆうノ事ことヲハナハナ聞き原はら大だい全ぜん復ふく歴れき近松成ちか垣かきに成里なりノ祖父田三たのさん時とき成なりハ三州吉田さんしゅうきちだノ城しろにさ籠こもりハナハナ下地げち堤つて討死うち其節妻せうさいハ胎孕たいぐ七ななヶ月げつなりハナハナ尾州智多郡おしづちたごほに所縁しよえん有りて隠ひ其所そのところにて男子なんしと生な成なり成長せいせいの後父のちちの名なと絶たて牧野田三まきのたのさんと名乗なをのりハ故ゆりりて石川隼人いしかわはやと佐すけに殺ころされぬ其子傳藏成里はつざうなり十六歳じゅうろくさい乃時に父の仇隼人佐すけと討取うちり長島ながしまに退ひき滝川一益たきがわいちよくに属まかし其そのら所ところハ合戦がっせんに高名軍功たかなしぐんこうあり故ゆありて滝川たきがわノ家いへと出でて織田信雄おだのしんご公こうに仕つかへ長湫ながせの軍いに首級くびかと獲とりて長谷川藤五ながたにふたご即秀すけ一いつ乃妹い婿むことなり秀すけ一いつに附つきて朝鮮しんせんに渡わたり忠州ちゆうしゅう晋州しんしゅうにても軍功ぐんこうあり帰朝きやうてうの後豊臣家とよとみけに仕つかへ慶長五年けichoごねん御合戦ごがっせんのち成里なり浪なみ牢らうと備前びぜん侯こうの御吹捧ごふいほうにより同八年どうはちねん関東かんとうに召出めいされ勤仕きんし奉ほうり終はつに伊い守しゅに任まかされ同十九年どうじゅうくねんの夏なつ五十九歳ごじゅうきゅうさいと病卒びやうそくのち志しヲハナハナ其當郡きとうぐんに居住きゆうじゆうありハナハナ地ちハ信景しんけいの尾張人物志おわりのぶとしの豊臣家とよとみけ家属けいぞく士し乃なりうちハナハナに牧野傳三まきのでんさん成里なり知多郡ちたごほ大高おほたか村むら後伊ごい守しゅとなりハハナハナ知多ちたごノ



鯨魚

師寄村乃漁人志れ捕尙事名所國會の幡頭崎の糸にあり  
土佐一置つ今又其書（一）と補小允二三十年以前（二）ハ此  
邊の海底いと深くて鯨鯨乃たふひ多く住またり（三）と伊勢尾張  
三河の川より砂土流ま出連て海裡をくたふ（四）今近年ハ大衆の獲ひ  
まふ南乃洋中にのみありて磯近く来らふ故捕り獲る事も又  
まれ也（五）より鯨ハ紀伊肥前木の諸國に多く彼ふ（六）こと影蓋（七）も  
事故弥ら（八）つすとい（九）もむ（一〇）ハ伊勢尾張乃海ゆても多く  
と此地の間瀬氏。其業れ名人より關東人に教つて鯨をつき習ハ  
せ。事のあり（一一）わりのくハ（一二）きといハ（一三）其  
一とまらひ見聞集（一四）三浦浄心（一五）慶長  
年中の筆記也。乃關東海より鯨つく事といハ  
糸にららハ大衆るれ昔伊勢尾張兩國にてつく事有り是より東  
乃海士ハ行く事と知ハ然（一六）文禄の頃ハ間瀬助兵衛と云て  
尾州より鯨突きの名人相摸乃三浦（来り）マ（一七）東海に鯨多く有

我と見て取小所の幸ひ哉（一）と網て用意し鯨をつく云云此助兵衛  
が鯨つくと云より關東諸浦乃漁人（二）より網て仕度し鯨をつく  
故に一年小百二百つ、毎年つく廿四五年此（三）もや突け（四）今  
もろ（五）らも絶果て一年にや（六）四つ五つつくとも（七）り今より後  
乃世小又鯨たを果の（八）云云と土佐より叔又文明六年六月十七日  
江戸歌合に

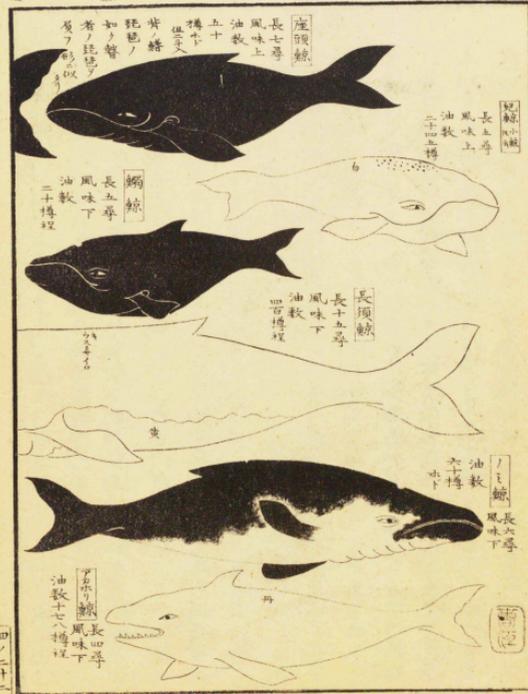
土佐と沖のくらのわさ（一）一すち（二）くら（三）ら（四）タ（五）あ（六）ら（七）  
とる（八）と（九）と（一〇）と（一一）と（一二）と（一三）と（一四）と（一五）と（一六）と（一七）と（一八）と（一九）と（二〇）  
と（二一）と（二二）と（二三）と（二四）と（二五）と（二六）と（二七）と（二八）と（二九）と（三〇）  
と（三一）と（三二）と（三三）と（三四）と（三五）と（三六）と（三七）と（三八）と（三九）と（四〇）  
と（四一）と（四二）と（四三）と（四四）と（四五）と（四六）と（四七）と（四八）と（四九）と（五〇）  
と（五一）と（五二）と（五三）と（五四）と（五五）と（五六）と（五七）と（五八）と（五九）と（六〇）  
と（六一）と（六二）と（六三）と（六四）と（六五）と（六六）と（六七）と（六八）と（六九）と（七〇）  
と（七一）と（七二）と（七三）と（七四）と（七五）と（七六）と（七七）と（七八）と（七九）と（八〇）  
と（八一）と（八二）と（八三）と（八四）と（八五）と（八六）と（八七）と（八八）と（八九）と（九〇）  
と（九一）と（九二）と（九三）と（九四）と（九五）と（九六）と（九七）と（九八）と（九九）と（一〇〇）

本邦  
冬河野老記

氏と名乗れ舊家叔字りり助兵衛ハ其先祖乃一族な（一）叔合の  
世にも叔里南の洋中にハ鯨多くありて折に内より築田前まで来ふ  
事あり塩尻に正徳三年六月十八日尾州堀川ハ鯨魚多くた（二）り  
来ら入集りて取わけ（三）が前々（四）とかげと魚の要まで来り（五）事

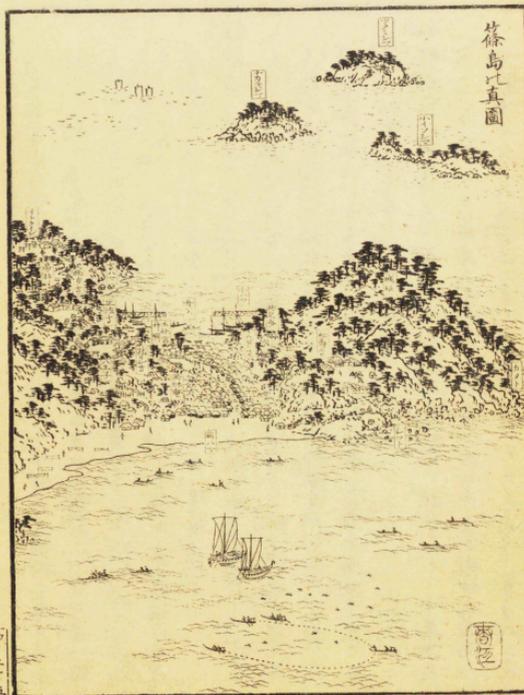
きし傳へば漁者曰日下り久末時ハ鯨内海へ入り諸泉進ハれて濱迄  
くち事有之と云云と又又或家の秘記にと延享四年二月十  
日智多郡加家村前の海中ハ長七間余ノ鯨象手負て流き來り足物  
人羣集以金二十五兩にて藪村の者買取り利を得しと志傳せり其  
後とたひ前濱より獲し事ありて足せ物なりとす凡唐土にて  
長叔十尋の大魚四足ありものを鯨鯢と名け多恐れて捕俗事とす  
日本にてハ往古より取事萬葉集に云く惣て鯨の子ハ卯生  
せず一足げ胎生ハ牝牡交信事ハ人の如く腹を合すと云大鯨ハ  
陰莖ハ長一丈四五尺圍り三尺なり是ハ石子といハ鯨珠の事  
ハ本朝食鑑に云え鯨糞の事ハ多識編にあり合せらる一鯨大小  
十余種我所蔵の鯨寫生圖及び神谷三園の藏書鯨繪卷より司馬君岳  
ハ西遊旅談等によりて其形を圖して一覽に依ル  
志津鯨師 師寄邊に産けりハ偏モハ上品他にすれ干看にて

清紫比類ナリ依て年々四月中旬關東一御進敵りて武鑑ハ  
御家時献上ノ條に四月十八日志津鯨師と云り家に名産すと云  
たつきハ地名々諸國に例多く志筑後月尻調たと云く書ケリ當  
郡枳豆志庄ハ其地甚廣くむら志豆枳庄といひたりといつ  
誤り轉倒すべきつとなりたふ物ハ尾張氏の遠祖尻調根命元  
調止女命ナリノ居住り地ハ押とれたり後人ハ誤り  
考ふ  
りやりの怪 兼穂録二篇に尾州智多郡の海上に十二月晦日舟  
泛むれハ必幽冥といハ物乃如き怪物多く頭上舟にげきてやんや  
其時じやくと多く海に投さるハ怪物退くといハ海援録録  
に鬼哭灘極怪異舟到則没頭隻手獨足短壳鬼百十争互羣來趕舟  
人以米飯頻投之即止りハ異なり西國ノ海上にてや  
いハ物同ハいハ今猶師崎也の漁人其外の村ハの者









と畧り

金剛山醫徳院

同島にあり真言宗にて中島郡長野村万徳寺の末寺

なり天正三年秀範法印の造立境内に藥師堂及び鎮守白山社大黒社

蛭子社等あり

龍門山正法寺

同島にあり曹洞宗遠江國周知郡久能村可勝齋の末

寺也應安二年説宗和尚より創建鎮守熊野社秋葉社あり末寺も造福寺

正藏巻とて二字あり。先年他所より移りて今其旧地のミ残り

東照山松壽寺

同島にあり曹洞宗須佐村正衆寺の末寺也天文十一

年雪天和尚より創立末寺一葺斬新造巻の二字。先年他所にうつして

其跡今ハ明地松林と称す

安静山西方寺

同島にあり浄土宗にて京都智恵院の末寺なり永正

十三年安養上人の創建本尊の阿彌陀も聖徳太子乃真作なり鎮守弁

才天の社あり末寺安養寺ハ先年他所にうつして今ハなし

青前魚釣并鰯網の事

見らさハ篠島日間賀島佐久島ホのらハハ小

舟なる人見氏乃師寄日記に村乃伍長珍左門来りて鰯網を引云

叔小舟一艘と物たりたちちに打乗りて篠島の沖より引てゆく三

艘に組ハ鰯舟といふ門會ハ師寄舟伊勢舟鳥羽舟伊羅古舟

等相交りヤニコウにと細くたくすや何とも拳心といハ四方

より叔十の見物舟我らちに入入て鰯を奪ひとむすおれと形

也。と雲の喧嘩騒雜海賊なり。及多すハわくと有。我も乗移

りて二百匹と有り細取寺鰯と左右の手に引りて八方へ拂つ海

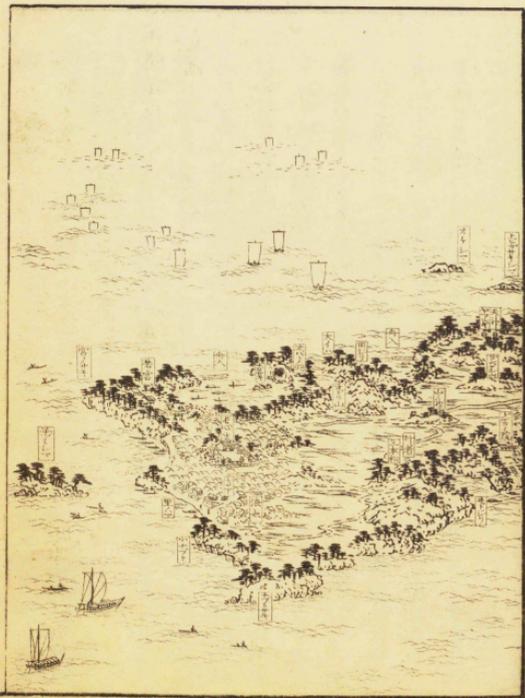
龍王。奉内初尾なり云寄舟にも奪れども争て拾ふまに鰯舟漕

りて走心内にも無数の銀花飛散する景色伊吹山雲の雪も見え

る。諸天神雨花乃快樂も是にハ過りと思ふ又なき見もの也佐

久島さして十町をり東へ行くに釣舟多しわがはつるよひい

なす見らさハ事也鰯と餌みてつる見らさハ花も葉なり浪を





せりいきもつたり、人物を「を思へ」と古歌に「よみきればがさき  
もり」〜「されども連年島うち豊饒になりて今ハさの業すも女  
とまれく」にぬり行〜」也

若宮八幡社 日間賀島の西里にあり、頗大社なりて、殿宇嚴麗に備ハ  
又末社も多し

澳養山大光院 同島の大里にあり、真言宗にて大井村匡王寺の末

寺なり古刹にして由緒た厚く、けなき〜「〜」も事繁かれ、とされ  
と畧し島人の職業澳獵のみなれば山号とむ〜「〜」安樂  
寺乃阿訖陀仏に奠物と備ふと一觀也

龍松山吞海院 同所にあり、曹洞宗にて條島の松壽寺乃末寺なり、寺  
傳繁多かれ、これと畧す境地ハ海岸に臨み直立たる巖壁の上なれば、  
殿宇のさ向恰と唐画と見ゆ、如く椽椽乃老松蟠屈〜「〜」く神  
龍の海水と呑むに似たり、山号院号さ〜「〜」起まゆかり〜「〜」東西國、

乃遠山ハ手に、俗如く五十里六十里なるハ一瞬のうちに入まり小  
田切忠近中尾義福我と三人天保十四年の秋公命と奉りて智多郡と  
廻行し此島に到りし時、案内す俗者乃物語に此地より望遠鏡とて東  
南の洋中と云れば、天涯と云く小蒼翠山色と覺き物な〜「〜」く、  
望いつり、杵ハ八丈島〜「〜」くハ無人島の山なり〜「〜」其時評〜  
ゆり〜「〜」なり

恵比須松 須佐村乃海濱にあり、邪君乃御哥によりて、よよなき名木と  
なれり、天保十四年神皇御成御道の記に須佐の入江なる波うちき  
ハに若と根〜「〜」て生出る松と恵比須松と云く〜「〜」き〜「〜」て

名に關し、岩乃比女子の思小ま〜「〜」む、  
こ〜「〜」ひ、  
なれ

小佐の古墳 須佐乃属邑小佐村乃海濱にあり、人見氏の師壽日記に小  
佐乃海濱小古墓の發けたる一基あり、條島石にて、冬〜「〜」り四五十  
年以來波浪よく打出せり、椽百歳と經〜「〜」古墳なり〜「〜」と邑老等。



申しより志留せり誰人乃墓々知り可く分れど須細治部大輔為基  
乃墓なるや猶考ふ一為基ハ比地乃武家にて頼朝卿に従ひた  
り一壁となり

須佐入江 名所圖會に引れたる歌

須佐入江 名所の旁 俊憲法師  
ほこりふすさの入江より江に小舟を月の沈らむ 信生法師

新和歌集 歌の巻 信生法師  
何ものすむまも入江の子なれぬわかれてうみの草まふ

草枕集 幽也 正徹法師  
うかれますきの入江の夕飯を泣きまてまろりちの村も

土州集 歌の巻 正徹法師  
まじりあちの江に月夜にみたりしつゆを月をうけ 實隆朝臣

判詞に五 ちかればはいふもつにすけりちのたすきの入江に  
いふたひふもつにすけりちのたすきの入江に  
いふたひふもつにすけりちのたすきの入江に

石蟹 須佐村乃名産也本草綱目啓蒙に石蟹は一名和石本草要蟹土中  
に入りて土と共に化して石と銘も物なり大者ハ一尺許小者ハ一寸  
許和産ハ尾州日間嘉島及須佐村云々と志留せり今ハ日間賀島  
はすくなく當村に多し丸石のくハ雜卵のりの五郎太石石蟹てうひ

鼠色なりニツに割ハ中に蟹ありて共に石となりうくまれり形ナも  
色も全く具足す誠奇品也

新艘の事 ちかや草多田南嶺に尾州知多郡の也嫁入の時富りも人

け新く船を造りてさなは婿と嫁との紋と居て舟に乗せて送

ゆされハ嫁と御新艘もソノ名古屋堀川へ石臼海船にニツ紋了

たも多し古風なる事にうそと志留せり 崑山集慶安四年の月乃

祭勺に

伊勢乃海の月乃出舟やゆらん造

作者不知

と何もの嫁入船とさしてソノるなり一伊勢比海ハ則此智多る海  
なり凡船もて嫁を送り迎へすも事ハ當郡諸村一般にて何處もさひ  
なき地なけまど比内海庄のうちには大小船數多所持りたる富家  
多分れば志留くちくちくにも船の志んも新造とわく方古  
雅也其故ハ職負念の太宰府の糸に主船一人掌修理舟攝義解に謂

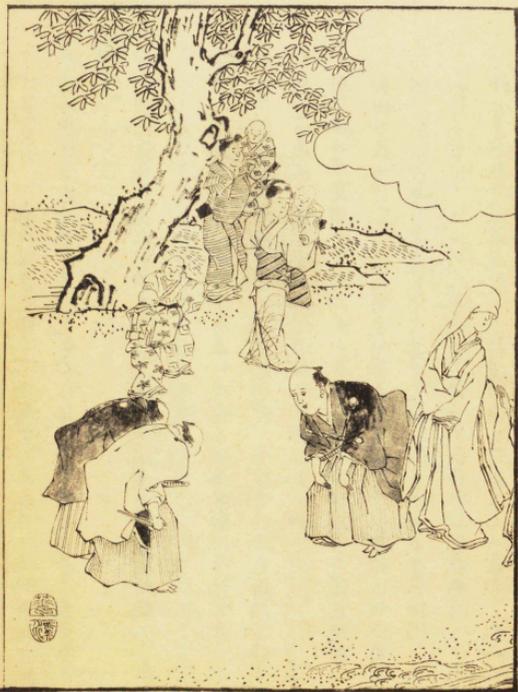




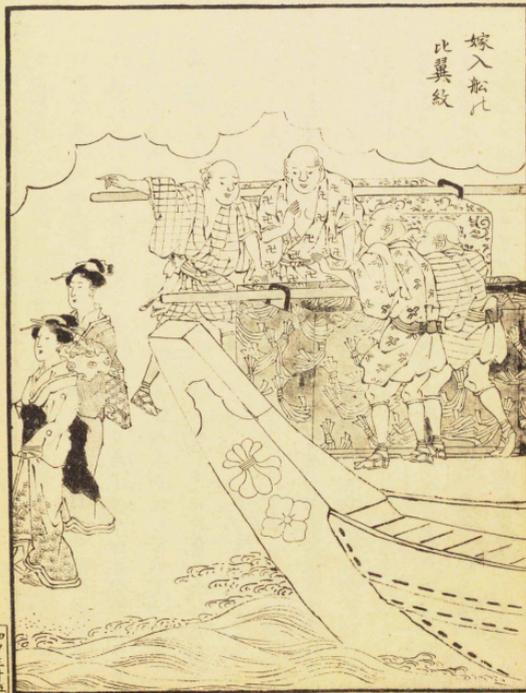
ハヤハメ船の進退と云ふこと云せされも網代外に奥もれて多く  
故より所々ハサといひり村君ハよく其業に妙と云はる者よ所に  
尊崇せし中む甲斐の武田家乃軍士萩原常陸此地乃村君  
いふ松と指圖すも挙動を之て工夫しつゝ一軍兵と指揮まも相  
圖と定めし塩尻に居たりいと古雅なる業也叔渙者と村君と  
いふ往古よりれ名をうつ傳播の吹上の巻に著の院にいて給  
ひて所まもけきりつとて其地をいふをむきみりて大野  
みまをせしと云ふと云ふ又吾にふゆふハ  
山家集 仲たし思にうきつるあふゆふゆふりるふと云  
思の社にかくむしれも浪りきてわいひとむつ所まもひと云 西行法師

一 色村 小野浦の北にあり一色氏代々當郡と領知して内海乃邊ま  
大野の所より居住あり足利氏乃貴族なれば其居地則村の名  
ありてまもれる小邑なれども野間庄一色村と今に歴然たり  
季瓊日録長祿四庚辰九月廿八日大智院領尾州内海庄廻舟公事一

色殿被官人押坊可停止違乱之責命飯尾左衛門大夫方也 十月廿四  
日大智院領内海庄廻船之違乱一色兵部少輔方被申可預御成敗之訴  
狀披露之即命寺奉行飯尾左衛門大夫也 寛正二年己九月十日大智  
院領内海庄一色兵部少輔殿被官成違乱之事伺之可被成御奉書之  
由被仰付也と云ふは兵部少輔義範の事之義範ハ分脈系譜及  
ひ武家評林系圖に修理大夫滿範乃子息のふちやせり義範と云ふ  
五郎と稱す其兄と次即持範といふ兄弟とも其居地定つるすと云  
とも前件内海庄廻舟の公事出立ると云えれども何と云ふ所の地に  
ありしを義範のちに大草村と移住ありし名 因に一色氏代々  
當郡居住したるに分と左に畧記す  
宮内卿公深 足利宮内少輔泰氏乃末の子にして一色氏の始祖也一  
色法印大夫と稱し威權世にすなれり法号と道秀と稱し正和三甲  
寅年小倉村に蓮臺寺を創建し則その香花乃道場なり



嫁入松比  
比翼紋



太即範氏ハ一卷ノ源平系圖に宮内卿公深ノ長男にて一色太即範氏大興寺殿と志付せり武威尤まられたりのちの大興寺の条と合せ  
スル  
右馬助頼行ハ 範氏の弟也公胤系譜に建武年中武者所ノ関ナリ  
と志付せりのち淨土寺ノ條ト參考す

修理大夫範光ハ 範氏ノ子息にて一卷ノ源平系圖に号慈雲寺と志付せり名所圖會ス慈雲寺ノ条ト又合はレ一彼寺に一色禪門といふゆゑ一帖有り書体すられて古雅なり其辞尤の如魚良公の非五藏の筆といひ  
一色禪門ハ武畧の名世に關与弓箭の藝人ヲ勝れり張良英會と  
と物の教ト爲アスルハ九州度々の合戦其ゆゑハ鬼神の如ク更に  
面とむらふ者ナク誠一人當千といひつ一又武藝の秘術ヲ傳  
えたる事まことに他人の志付可くすべし一に三代柳營一に  
抽賞せられしに名況哉と和漢の教奇心ナクゆゑとて春山百

花乃頃秋野草のまうりすて醉花のなびとよひちハ幡  
北野の法樂年毎にむこたはされん花下ろ捨客月前の騷人彼送  
愛と志付し甘棠とすやが如く愛と金蓮寺上人多年のゆり  
ゆりく金石の約々カクク鳴鶯の盟と愛と久珠ノ名号の利劍と  
提て九品ノ望懈らさりき志しれと双林の春花忽に枝り提河ノ  
水の声悲耳にむぢ人廿五日乃遷化聖廟と定めて引接し  
云 此ゆゑに愁淡とわきて聊亮筆と深まものなり干時  
詠らひの二のこ二月末の五日このちの記  
左京大夫詮範ハ 範光ノ長男にて長慶寺と号ひと一卷ノ源平系圖  
にいり庵原守富ノ友千鳥延享改辰年五月智多解抄覽の日記なりの頭書に名和の城  
跡と一色左京の持云云と志付せりい詮範の事云  
修理大夫満範ハ 詮範の子也委くくすノ師寄の条に志付は同  
源平系圖に慈光寺と号せり志付せり東端村の臨湫山慈光寺

ハ此満範の菩提所ナリ。一淨土宗にて威岩村常樂寺の本寺ナリ  
その外木田村觀福寺中興ノ棟札に實徳二年庚午十月三日立畢執者  
尊海大檀那一色左馬頭一色中務大輔ト云々タルハ甚多ク此レ  
ト畧ス

野間庄 上野間村ト云々ノ故ト村ト野間莊ト云々ノゆクニ地名にて

平治物語源平盛衰記等に尾張の野間ト見え吾妻鏡ノ建仁二年二月  
廿九日乃條に壞渡故大僕卿朝沼濱御舊宮於鎌倉被寄附于榮西律師  
龜谷寺云云ト云々ナリ又舊事本記に宇摩志麻治會十三世物部金連  
公野間連祖也ト云々ハ尾張本貫の姓氏にて云々レ人ナク  
原景高の後室と此地と領知セ也吾妻鏡に正治二年六月廿九日甲  
寅故榎原平次左衛門尉景高妻三刑部若尾御臺所官女御寵愛無  
比類且雖為女性体為其仁故將軍御時雖領尾張野間内海以下所ノ訖  
而夫謀戮之後一切隱居頗成恐怖之思云云仍有其沙汰領所等不可有

相違之旨今日蒙仰令安堵云云ト云々ナリ

織田信考の吳威 柳並村大御堂寺ノ境内ナリ信考ノ墓に危難消

除等ノ祈願トナセハ必應驗ナリト里人イフリガ小重猛ト云々ト  
大将カレハさもち云々ト豊臣家ノ滅亡ノ云々ト云々ト此人の憤  
怒怨念に云々ト家田大峯の昇平日新録に神祖語侍臣曰忘  
君主恩而虐其子孫者雖有一身之幸其報必將在子孫其驗迭見大坂也  
秀吉志織田氏洪恩而唐信長之子信考於野間内海自殺云云今而思之  
信考之死則五月七日也大坂之滅亦五月七日也可謂其報不違矣乎ト  
志云々ナリ此ま至當ノ御專言ナリ非道ト云々ト云々ト  
ち人倫たゆものば云々ト云々ト云々ト慍窩文集に

今古義朝無信考君臣乱逆後人哀哀之不鑑應知此業道野間猶禍胎

と云々も其不道とい伸むる意味ニ云々ナリ

柳並の池に血乃涌出ス事 中古西三度も有りト云々ト近世も此出

事ハ玉満徳見に延宝八年十一月尾州野向の内海乃池水紅に成  
も也と志保（或武家）の秘記に元文三年十一月中旬頃より村並村大  
坊乃池に血涌出て廿一二日頃ハ別して盛なり池の成変乃方と  
寅の方と二所よりまきうち南の方まで二筋もに水面にひき合  
いつりより（又より）西子河内田言尺度池水以合月十八日自己至西度二  
血云云と足平代記に長禄元年五月十日様次池流血と志保為字記に明暦二  
年十二月九日様次池流血其外惟異有之云云と云々ハ此同様の様事なり  
望野間内海感源典

菅茶山

黄泉ヲ陽村也

聚妻當得陰靈半生子須如李亚子此事古今人冥能兼二者將軍是

如何一朝も狂謀煽動戰塵汚風樓身既伏誅二子戮妻抱鏡孤妻夫歸

浮雲惨淡山日移内海風潮晚凍其葉威名片時夢奇番千載被人嘆

太原遺孽韋韋雄武末路無如港跛危鶴鶴原荒又難難祇有卷灣來布古

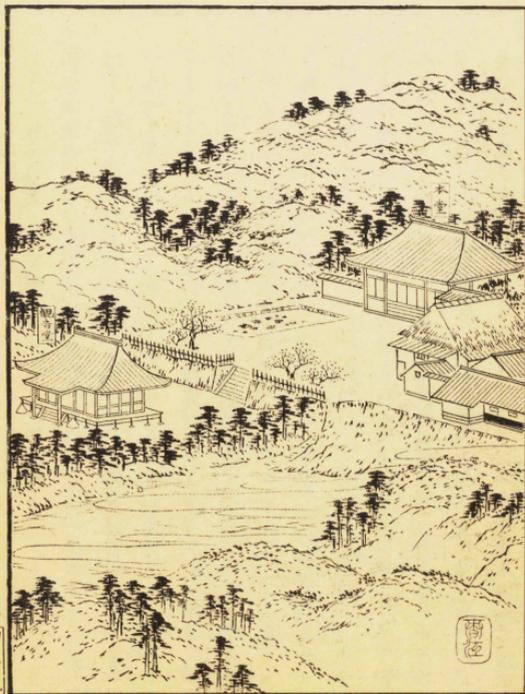
長田四郎太即親重 長田忠宗乃餘裔にて野間庄の人なり（たれ）其

出生の地今定り難く駿河に以て今川家に仕へる不幸困窮にせ

まりて終る自殺び自在（自在）の繩に切りて縊死すハいと珍らき妻  
死なり宗長手記に尾州之人長田四郎太即親重志の年月病して割  
心きつひのとなりて奉公にと及び然りハ給恩にと離きて後奉心  
に立帰り其母もさ思ひあつたゆひもあつ事もさびされハ又誰と  
アキ方もなちて月日とつち程窮困し計りなく一振一腰身に掛  
け物までも活却し或ハ祭りもくろ祈の物にせり或ハケツツ尾  
の賄なひけりて飢寒の二字此宿の物もソア一とてハ妻と  
と縁ににるちやり此頃ハ獨住にてわ若著す回借の返弁にと及バ  
私を催促のせめ使ひ志移りけりて如何ともせ思ひまひての事に  
や大永五年八月の十七日乃夜逃き所乃觀音に参り下向して水との  
み繩乃一尺なりまほも自在と云鍵ハ繩ハ頭と入て祈に志め祈  
りてすべりなり死すも也明る朝己の刺下女又けけりけり  
告げりもなる如此の思ひいふ計りの事や五日さだまりいささの

西阿野村  
高讀寺

山名一  
名所  
中會仁之方



朝暮とちてあつひひとりぐん事衣れ浅うひきてて人ハ尚也の  
口論うて差違(戰場)に討死すも事侍の常なり之虎ハ死  
す皮ととめ人ハ死して名ととむ中より希代の事なり  
と志内より是も又先祖の積志の餘殃なり

魚油 當郡中ノ名産にて内海野間横須賀より諸浦日間賀篠島等に

て製ひ君山著書に海鱈及鯧魚河豚肝皆可為油就中鯧魚其利甚博内  
海諸浦製之其法海濱空窻安大鏡汲潮水滿之投鯧魚數莖煎熱時  
入榨器壓注膏水共滴以柄按之膏浮水上以杓挑取捕邊押筒去水所取  
之膏以沙漉過即為清油幣之四方以為灯燭之用と云へり

熊野崎 枳豆志庄熊野村の出寄といふ風景尤斜たつて永禄十年七月

ろ富士見道記に亀寄といふ所より二里とつり南けう熊野寄とて

三熊野にむくつ洲寄(漕)出て

みく島の浦風涼(林)乃海

船巴法橋

八兵衛躰 常滑村の陶工白鷗俗名と八兵衛といふ名工にて天明寛

政の頃世に鳴る禽獸共奥多の香合香爐水指など種々作る其うち  
奇にて雅趣あり實に妙手なり又俳諧に長し手跡とよみ遊興  
にゆけり酒と好む醉狂の歌ひ手とたひてうたい立て踊成ハ  
衣裾をうけて尻のりハたつとも妙に常に禪とまじりて用ひ

されも前りのハ貴人の前富家の席といふも憚り事なれど其  
失礼と咎の人なくもへげと真なりと賞せし内実小徳乃至志内  
存に世にあつてせふ内者と八兵衛といふ事ハ此白鷗より始まり  
と其項儉約流行して禪とまじり用ひ人稀なりたたく縮もめん  
あつてする者とうへけて古風也と笑へりされも柳樽にも

古風なる内人の物んとてあつて

壱鳥井 壱鳥井 川原村にあり源頼朝卿此地を過られ一時此井水と嘗に飼



常滑の  
八云巻  
踊り



三  
浮  
繪



琉球の使船難  
風に遭りて知  
多浦に漂着



こもゆさうりとも賊難有りとも警固の侍所まゝのせくれは古傳  
るなく夕なびく暮るそは得たにやつけたりとあるよて如  
る

龍燈松 大草村小所り君山著書に龍宮松在大草村浦口里老傳云古有

龍燈屢上松梢故名而今村民祈雨必有愿云と志ひてり我松の松乃木  
其に界の法に  
に例多く散々所を其うち草松集に凡ゆるから依の浦松をいへて浪  
浦せられたつものいふとありは井後乃天の瑞立に海流よりて正五九月十  
六日の夜天より一燈降まるとよりと名所方角抄にも瑞立松に  
毎月十六日の夜竜宮より燈あると志ひてりゆき龍燈あり

大草城跡 同村にありて境地甚廣く降邑襟屋天神の社傳に寛正三年

大艸の城主一色氏修造のよといり一色氏乃居城と云はけ持け  
城今ハとりりて天正の末織田源五長益與南に地を領し城を  
築きいまま就びて罷しを山澄淡路守英龍當村と并領のち  
社第宅と營構あり今に歴然として古城の姿やのこりて  
八百比丘尼の大楠 南粕谷村にありいづから取てやくよび来り

今ハ知りて八百比丘尼一名白比丘尼或ハ若狭比丘尼ともい

若狭國小濱に里民の傳説に比丘尼ハ尾張國一の宮の金光寺といふ  
所乃出生のよといりと彼國人語まり叔中島郡真清田の社乃東の  
方に金光寺町と云ふ地有りてさゆ寺院今ハなといとも其有り  
りて生まゆ婦女あり一宮人もいひ傳てりされ當國土産に  
多し智多郡を所縁ありと汁りて貝原氏乃諸別めらる小

若狭國小濱に城なる建康山空印寺に八百比丘尼の石牌有りて  
福徳長者のむすめ人美と食ひ給ふ八百年いきて其所に住居た  
りとい里人いひ傳てり志ひせりされとい頃の人のさうに

子ばほくとをさして即雲日件録の宝徳元己七月廿六日の条  
小近時八百歳老尼自若州入洛洛中争親堅閉所居門不使人容易着

故貴者出百錢賤者出十錢不然則不得入門也と志ひせりよてその時  
代ハ大概志れんとい其趣て口今の世俗の又世也といふりけ

たゞいふ老女うらひも押おしせりしものもの若狹尼わかつらにと稱なづせり人ひとも  
歴々あつ武家ぶけの後室ごしむよりきふたゞひひ賤せん女によにありあり若狹國守護  
職しやく次第しだいに津つ見右衛門みゑもん次郎忠季つぐゆき建久七年九月一日守護しよご并領へいりやう云云いんげん寛  
喜三年今富名御代官若狹尼わかつらに若狹尼わかつらに者もの云云いんげんと云いへんん若狹國稅所今  
富名領主代とみなりやうしゅだい次第しだい若狹わかつらの尾連おしづら年北條家知行の代官とつとめりとり  
其後そのちいい程存ほどぞん余あまりり今いまハハささりりさされれもも八百はちひゃく比丘尼ひしゆにハハ後  
家の事このこととと思おもははししとと怪あやししむむ若狹國わかつらくに武家の娘むけのむすめなるなる若狹小  
嫁よめハハ斯か長壽寺ちやうじゆじニニ嫁よめりり也なり  
其山集

其山集

雪ゆきとと人ひと始はじめりりちちやや日ひ々々やや比丘尼ひしゆに

長頭丸

金鐘山瑞光寺

鍛冶屋村に在り曹洞宗より能登國總持寺の末寺也  
明徳三年妙叟和尚より創建應永年中勅しゆくして金鐘山定光報恩禪寺の号  
と賜ふ在りて貞享二年今令いま寺号に改む

佐布里寮野

佐布里村の名物より上供にも佛ぶつ潔けつ白細條はくせうじょう化産けさん小こままき  
まり近隣諸村にてと製つくり當郡中あたごほへて麵粉めんこ精好しやうこうなり故に大野おほのより一  
口香名和の乾温飢等けんおんけいとうと名物なぶつなり

寺本庄

堀之内村中島村四五ヶ村いほのちのに在りに也無住國師むぢうこくし乃すなはち難談集なんだんしゆ  
に智多郡ちたごほのうちに阿弋あご寺じ本ほんと相並あひなひたる所ところなり阿弋あご乃すなはち地改ぢかいと寺  
本の地改ぢかいと伯甥はくしやう也なり各其地に代官しろくわんを置おけり守りまもり也なり今いま阿弋あご乃すなはち  
代官しろくわん非義ひぎと働はたらき寺本じほん乃すなはち地改ぢかいと押領おしりやうとと寺本の代官しろくわん  
心こころよりより思おもひひて主しゆの地改ぢかいに其由そのよし告つげりり也なり今いま寺本じほん乃すなはち地改ぢかいと  
恥はづしし賢けん人ひとより心こころににおおけりり近親類ちんしんるい乃すなはち聞きかれればばいいさされれ事ことに中なか  
けけいいせんせんハハいいふふ沙汰さたすすべべししいいひひてて其俵はたけよりより魚うまつつ多た年  
の後阿弋あご乃すなはち地改ぢかい自然しぜんと其由そのよしと聞き知りり甚しん耻ぢ悔かいとて我われ知しりりななららずず也なり  
不正ふせいとといいひひにに思おもははしし事ことと心こころ苦くるししががれれしし我われ代官しろくわんと叱しりり其  
かすめたる地ぢ小阿弋こあご乃すなはち地改ぢかいとと一いなり

姫島村中古  
草牧乃豚



草堂

四十一





英比九幼年  
乃取智





老の俗傳も又新らうと説なかりぬ 去の廻り地蔵と名所書會に  
廻り地蔵改りたるは  
かし英比元は延喜のころの人たり頼朝卿より以前に此地より名月あり  
りゆ 且又廻り地蔵といふ法蓮に樹多く山城國山科の四宮村に廻り地蔵堂  
あり源平盛衰記に西光法師大珠に地蔵菩薩と通り四宮川小幡里六ヶ井に蓮華  
と構卒都婆の上は大徳の尊像と居奉りあり地蔵と号す云々といふあり  
廻り地蔵の條に古歌より俗に云ふ 堀尾春芳が集めまは衣れ浦千鳥集 和  
三年五月の自序ありて乃頭書にもけ智重の付句により郡名とかり  
三年三月夾鍾板行す  
よし 志阿 といふと其旨少くたつり猶合せんばなり

衣の浦の古歌 名所圖會にもれた俗と補ふ

井内侍日記 至に内侍平重盛がてりて西宮に衣をたす

たちなれの衣の浦や春雨はあててあまの神ぬららん 井内侍

草根集 衣の浦 衣の浦はあててあまの神ぬららん 正徳法師

あまの浦の浦のまもりてあまの神ぬららん 同

吹くは夜の衣の浦風小萩のほなみのうらまらるる 同

松井雨と衣の浦の浦のまもりてあまの神ぬららん 同

大里橋  
古覽



録小智多郡大郷はとてゆき郷名なり

龍雲山大興寺

大興寺村にあり臨濟宗にて岡田村慈雲寺の末寺也

一卷の源平系圖に宮内卿公深乃嫡子一色太郎範氏大興寺殿と云ふ  
人此菩提寺なり境内大日堂の本尊大日如来の蓮臺に負和元年  
乙酉再興源範氏と云ふ寺号ハ則範氏の法名也

高根山正盛院

草木村にあり曹洞宗にて三河國八幡村西明寺の末寺

なり天文十九庚戌年榮信正盛尼公乃創建なり則その法名と院号と  
ハ尼公ハ水野右衛門大夫忠政主の息女傳通院君の御妹なり

青承山浄土寺

同村にあり曹洞宗とて同所正盛院乃末寺也一色範氏

乃弟右馬助頼行建武年中當郡大野の城主にて當寺を創建す頼行の

法名と浄土寺殿大照臨公と号しとやして寺号とす

蕃賀郷

和名類聚抄に智多郡蕃賀とあり板行本にハ蕃賀と云とてり去村松原

村等の數村と云ハ日永郷と称ハ是蕃賀の旧也と稻葉通邦の著書

にいり日永崎ハ西の方へ出張りて伊勢國三重郡日永郷とて一向へ  
ア同名にテ風景ナクハ

忠女夏ノ事 おぢのハ古見村乃賤婦なり主に仕へて精忠を尽せり内  
藤東甫夏ノ像と西き細井如來先生其讃とあり其友左の如く

題忠女夏像

紀徳氏

是 藩潮厚賜以褒賞忠女夏之像也夏者我知多郡古見村農夫只  
右衛門之婢也只年少而喪父比長得癘疾久之失田產奴婢皆散獨夏  
止而不去扶主母以養病子既而衣食計盡主母乃知窮極無生理而憫  
夏謹護徒倍飢餓辱諭使去不可又使夏兄弟諭之愈益不肯去曰我之初  
逢主之富而至于今之貧亦我命之無福也吾將棄阿主而安之日夜奔  
走賃傭苦作無所不為僅以衣食二主時不得賃則行乞道路得食供之  
已則啜菽不掩體菜菔不飽口憔悴骨立使見者酸鼻而毫無悔恨之色  
日欣々以事二主為悅三十年一日云今茲天明元年辛丑主母年六十

三病主年四十七夏年五十七得能生存乎凍飢以及 君上恩賜盡夏  
之精誠之所致也開水藤翁好善為畫其貌示余、觀圖淚下因題之曰  
事君之餘致其身也雖未必期光榮於後日而有光榮隨焉蓋所以至有  
死而不悔亦出茲華野岸女豈有所知而期乎視天蒼々嗚呼亦何其報  
之彰著斯可以警士君子矣

荒尾古城 木田村小町の城主荒尾小太郎のち美作ハ水野下野守信元

乃智ちて武功ぶすくれりのち池田信輝入道に住す子孫因幡侯の長  
臣の先祖いりし荒太庄を領知り武勇萬名の同族多し三四人と左  
小町く

荒尾九郎ハ太平記ハ元弘元年笠置入軍の条に兩六波羅の軍勢に加  
ハリた美濃尾張乃人々のうちに荒尾九郎同孫五郎兄弟前陣小進  
み城中より足助次郎重範を射たる強弓乃矢に中りて二人とも比類  
なくめさりて戦死しとし也の事なり

忠女夏像縮圖



舊版

余欲助忠女奉其主之志亦貪而不能焉乃自  
 畫忠女像數百張請平列氏使題其上以與之  
 是以持好事之求取錙銖之判則庶幾可以助  
 忠女旦夕之勞耳

泥江朽菴主人 内藤正參東甫画

因に去當即成出村孫六備むるめひさ小野浦村清翁錙銖かの  
 西人父也及八祖母等考養のち名他と稱せし精考不ささ敷年  
 つひに持軸に達し天明五の四月廿二而女善鏡不世文下十  
 置もて忠堂一五ひより蘇共爾隨筆に之より時はら忠女  
 の多より一不思議と云へ



荒尾洞 加家村といへり洞と岫ともいふくま又わけとも辨はされハ  
加家ノ地名ハ如來山ノ洞より起。一カウ。一駿河の名所々々時々今ハ  
洞村と名ふると同例なり

建仁寺宗積

荒尾洞秋月

元張宗 雲間月露映清涼荒尾風光天下尤名境未嘗分異域洞邊移得洞庭秋  
同 名ヲと似す荒古此洞の松風にん志けりき厚のけり 佐野紹基

子安明神社 木山村にあり里老のけりくへり行基菩薩國通寺建立の時

氏社も創建ありといひ君山先生乃考へて日本國帳にのせりら從

三位鍛山天神ハ此社々といへり何とんと古めうに社地なり

關白秀次公事 名所圖會の大高の條に主向一並行と今又少

々附録す凡太閤ハ賞罰正一きを好む之も罪科と行ハるるに嚴

重一徹なりといへり其罪とからくすなり或ハ方便とてつくろ

ひ中解く人預レハ忽御氣分和らぎ省免一預ひ一例救夜ありされ

ば秀次公の奢侈ハ頗る過だつと逆意ハないひくると吹拳はる

關白秀次公銅印



重十三拾七文

祝鈕



文園所藏



愛知 県



1103263690

294

才

IA-3-4